

マレーシアに来て十三週目、12月に入り街中のそこかしこでクリスマスの飾りつけを目にする機会が増えた。雪だるまや大きなクリスマスツリーがショッピングモールやレストランで飾られ、一般家庭でも様々なデコレーションを買ってきて家の中をクリスマス模様染め上げている。日本とは異なり気候が年間を通して変わらないため、時間が経っている実感が薄かったがこういった街の変化で季節の移り変わりを感じられるのは面白い。

マレーシアでクリスマスを祝うのはキリスト教だけではない。国民の大半であるムスリムやヒンディー教の国民も同様にツリーを飾り、彼らの子供たちはサンタクロースからのプレゼントを期待してこの時ばかりは良い子であろうと努力する。彼らにとってもクリスマスはもはや宗教的催しというより商業的なお祭り騒ぎとして受け入れられているようだ。

丁度今週の金曜日にも大学内のホールを貸し切って学生によるクリスマスパーティーが開かれた。

パーティーの企画者は当然と言えば当然だがキリスト教で、また驚いたことに皆が東マレーシア出身の中国系マレー人だった。というのも基本的にキリスト教は東マレーシアに多く、半島マレーシアではキリスト教は少数派らしい。その為半島マレーシアにいるキリスト教の大半は東マレーシアの出身であり、故にこちらで学生が行なうクリスマスパーティーも基本的に東マレーシア出身のキリスト教の学生が集まり企画するのが常であるという事だ。パーティーの参加者はやはりキリスト教が多かったが中にはムスリムやヒンディー教徒も居て彼らも普通にパーティーを楽しんでいた。

またパーティーの食べ物だが日本のクリスマスの定番であるイチゴの乗ったケーキにローストチキンというものは無く、普通の中華料理だった。特にクリスマスだからという特別な料理は無い様だ。また肝心のパーティーの内容だがしっかりとイベントが画されており、皆での聖歌合唱に始まり簡単なミニゲーム、くじによるプレゼント、ミニドラマにギターや演奏会と他大学からの学生も招いて中々に賑やかなパーティーだった。

小倉

